

# 2018 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語プレ1

中岡 樹里（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

本授業は、入門レベル（未習を含む）の学生を対象とした、週5コマ全70回のクラスである。クラス目標は、1) 基本的な表現を使って、挨拶や簡単なやり取りができるようになること、2) お互いの日常生活について伝えたり、質問したりできるようになることである。メイン教材は『みんなの日本語初級I第2版本冊』で、学期前半で1～12課、後半で13～19課を扱った。週5コマ中4コマはテキストと副教材を中心に4技能を総合的に扱い、1コマは作文の時間に充てた。

## 2. 授業内容

メインテキストの進行は、副教材での語彙・文法項目の予習を前提とした。クラスにおける各課の学習は、談話レベルでの運用を目指して学ぶことを意識化するため、会話とその場面や機能・話題を理解することから始め、その後文法項目の学習、練習へと進んだ。2回に1課のペースで進め、2～3課に1回、復習日を設けた。なお、今年度は、各課終了時に行われるクイズ、および試験の語彙問題の質を高めるため、出題形式や使用イラストを工夫する試みを行った。

学んだ言語知識を活用した活動として、読解、作文、インタビュー活動（2回）、スピーチなどを行った。作文は、語彙から文・談話を形成する力の養成を目指して以下の順で行った。①示されたトピックから思いついた語彙を書き出す、②アウトラインを書く、③②をもとに作文を書く、④クラスメイトの書いた①と②を見て内容を推測しながら文を書く、⑤③と④を比較してリライトする。また、作文で書いたことを日本人学生に伝える活動や、作文をもとにしたスピーチも行った。インタビュー活動では、グループで結果を集計しポスターにまとめ、発表を行った。

## 3. 成果と今後の課題

授業に対する学生からの評価は概ね良いが、運用練習が不足しているとの声も見られた。教科書中心の練習に終始するだけでなく、学習内容と実生活での運用とがリンクするような活動を行うことが望ましいと考える。また、現状では読む活動に割く時間が少ないため、意識的に読む時間を取り入れることも検討したい。今年度行ったクイズ・試験の修正については、今後も継続して行っていく余地がある。